



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年10月29日

上場会社名 株式会社 帝国ホテル 上場取引所 東
 コード番号 9708 URL <https://www.imperialhotel.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 定保英弥
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 杉山和久 TEL 03-3504-1111
 四半期報告書提出予定日 2020年11月6日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	8,553	△68.8	△6,704	—	△4,569	—	△7,521	—
2020年3月期第2四半期	27,381	△1.0	2,091	5.0	2,193	5.2	1,517	5.3

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 △7,605百万円 (—%) 2020年3月期第2四半期 1,620百万円 (16.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	△126.79	—
2020年3月期第2四半期	25.58	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	69,502	52,547	75.6
2020年3月期	79,572	60,627	76.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 52,547百万円 2020年3月期 60,627百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

・当期末の配当につきましては、現時点では合理的な業績予想の算定が困難であるため記載しておりません。今後予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

・2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により当社グループは未曾有の影響を受けており、今後の業績への影響については依然として不透明な状況に変わりはなく、現時点では合理的な算定が困難であるため記載しておりません。今後業績予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。詳細については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	59,400,000 株	2020年3月期	59,400,000 株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	75,988 株	2020年3月期	75,956 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	59,324,039 株	2020年3月期2Q	59,324,061 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている将来に関する記述は当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や政府の緊急事態宣言に伴う経済活動の停止により景気は急激に悪化し、企業収益の激減や雇用所得環境が大きく変容するなど極めて厳しい状況となりました。

ホテル・観光業界は最も深刻で直接的影響を受け、渡航制限によりインバウンド需要が一気に消滅し、政府の外出やイベントの自粛要請に伴い営業活動の大幅な縮小を余儀なくされるなど、過去に例を見ない危機的な状況に直面いたしました。

このような未曾有の状況のもと、当社グループにおきましては、顧客と従業員の安全と安心の確保を最優先課題と捉え、ホテル主催イベントの自粛や食堂の店舗休業ならびに営業時間短縮など、政府方針に則った感染防止策を講じるとともに、全従業員に対してはマスク着用や手洗い消毒の徹底、罹患リスクを避けるべく最小限の出勤体制を執るなど感染拡大防止に鋭意取り組んでまいりました。

また、社長を委員長とした「運営再開準備委員会」を設置し、感染防止策や新常态（ニューノーマル）における新しいサービス方法を全従業員から募り、「インペリアルバイキング サール」において「新しい生活様式」に対応したバイキングスタイルの導入に繋げるなどグループ一丸となってこの難局を乗り越えるべく努めてまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は前年同期比 68.8%減の 8,553 百万円となり、費用削減を徹底的に進めましたが固定費負担が重く、営業損失は 6,704 百万円、経常損失は 4,569 百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は 7,521 百万円となりました。

セグメントの業績におきましては、ホテル事業の売上高は前年同期比 73.7%減の 6,683 百万円、営業損失は 6,717 百万円となり、不動産賃貸事業の売上高は前年同期比 3.8%減の 1,879 百万円、営業利益は前年同期比 3.3%増の 1,070 百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べて 12.7%減少し 69,502 百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて 12.2%減少し 38,546 百万円となりました。これは現金及び預金の減少などによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べて 13.2%減少し 30,955 百万円となりました。これは投資有価証券の減少などによるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて 29.8%減少し 4,511 百万円となりました。これは賞与引当金の減少などによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末比微減の 12,443 百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて 13.3%減少し 52,547 百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失の計上などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、政府主導の各種経済対策の効果が期待されますが、新型コロナウイルス感染症の拡大は未だ終息が見えず、景気は依然として厳しい状況が続くものと予想されます。

ホテル・観光業界におきましても、政府の観光支援事業「Go To トラベルキャンペーン」等への期待感もありますが、訪日外国人客が以前の水準に戻るまでには相当な時間を要するものと予測され、宴会利用などの国内需要の回復も当面見込めず、依然として極めて厳しい経営環境が継続するものと予想されます。

このような状況のもと、当社グループの全事業所において業績の改善には厳しい状況が見込まれますが、国内顧客の利用増に向けた販売促進を積極的に展開し、売上の回復に全力を注いでまいります。

また、業務効率の向上を徹底し、全社的なコストを抜本的に見直すことはもとより、政府が行う様々な経済対策や支援策も活用しながら経費執行を必要最小限に止め、収益の確保にグループ一丸となって注力してまいります。

さらに、従業員の社会生活の基盤となる安定した雇用の継続に努めるとともに、引き続き顧客と従業員の安全、安心の確保を最優先課題とし、手洗いや「三密」の回避などの感染防止策を徹底してまいります。

最終年度となる「中期経営計画 2020」につきましては、引き続き4つの重点課題に取り組み、「ソフトウェア」「ヒューマンウェア」の研鑽に努め、感染症の終息を見据えて現場力の強化に注力するとともに、「新しい生活様式」に対応した各種サービスの提供や新たな価値創造に努め、来る東京オリンピック・パラリンピックに向けて万全な態勢を整えてまいります。

同時に、SDG s（持続可能な開発目標）を積極的に推進するべく体制を整備し、環境対策や働き方改革など新たな時代の要請に応じた企業活動の遂行に努め、さらなる企業価値向上と持続的成長を目指してまいります。

なお、2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により当社グループは未曾有の影響を受けており、今後の業績への影響については依然として不透明な状況に変わりはなく、現時点において合理的な算定が困難であるため記載しておりません。今後、合理的な算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,231	21,156
売掛金	1,664	1,352
有価証券	13,704	14,510
貯蔵品	624	575
その他	704	956
貸倒引当金	△2	△5
流動資産合計	43,926	38,546
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,220	12,485
その他（純額）	5,426	5,809
有形固定資産合計	18,647	18,295
無形固定資産		
投資その他の資産	1,186	1,188
投資有価証券	8,045	6,846
その他	7,766	4,625
投資その他の資産合計	15,812	11,472
固定資産合計	35,645	30,955
資産合計	79,572	69,502
負債の部		
流動負債		
買掛金	619	459
未払法人税等	163	15
未払費用	1,445	1,086
前受金	973	934
賞与引当金	1,209	578
その他	2,017	1,437
流動負債合計	6,429	4,511
固定負債		
退職給付に係る負債	6,844	6,913
資産除去債務	987	993
長期預り金	4,564	4,504
その他	119	31
固定負債合計	12,516	12,443
負債合計	18,945	16,955

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,485	1,485
資本剰余金	1,378	1,378
利益剰余金	57,601	49,605
自己株式	△89	△89
株主資本合計	60,375	52,379
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	669	684
退職給付に係る調整累計額	△418	△517
その他の包括利益累計額合計	251	167
純資産合計	60,627	52,547
負債純資産合計	79,572	69,502

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	27,381	8,553
材料費	5,350	1,319
販売費及び一般管理費	19,939	13,938
営業利益又は営業損失(△)	2,091	△6,704
営業外収益		
受取利息	19	18
受取配当金	17	18
持分法による投資利益	10	12
雇用調整助成金	-	2,025
その他	53	60
営業外収益合計	101	2,135
経常利益又は経常損失(△)	2,193	△4,569
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	2,193	△4,569
法人税、住民税及び事業税	472	6
法人税等調整額	203	2,945
法人税等合計	676	2,952
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,517	△7,521
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,517	△7,521

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	1,517	△7,521
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32	14
退職給付に係る調整額	65	△99
持分法適用会社に対する持分相当額	5	1
その他の包括利益合計	103	△83
四半期包括利益	1,620	△7,605
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,620	△7,605

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失	2,193	△4,569
減価償却費	1,338	1,303
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△38	△631
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△4	68
受取利息及び受取配当金	△37	△36
持分法による投資損益 (△は益)	△10	△12
雇用調整助成金	-	△2,025
売上債権の増減額 (△は増加)	331	311
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△8	48
仕入債務の増減額 (△は減少)	△88	△159
未払費用の増減額 (△は減少)	△531	△359
長期預り金の増減額 (△は減少)	30	△59
差入保証金の増減額 (△は増加)	2	△1
建物解体費用引当金の増減額 (△は減少)	△256	-
その他	△495	△841
小計	2,425	△6,961
利息及び配当金の受取額	77	70
雇用調整助成金の受取額	-	1,748
法人税等の支払額	△809	△93
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,693	△5,236
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	2,000	-
有形固定資産の取得による支出	△747	△640
投資有価証券の取得による支出	△408	△5
投資有価証券の償還による収入	400	400
資産除去債務の履行による支出	△41	-
その他	△36	△119
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,166	△365
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△533	△473
財務活動によるキャッシュ・フロー	△533	△473
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,325	△6,075
現金及び現金同等物の期首残高	32,768	37,231
現金及び現金同等物の四半期末残高	35,094	31,155

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響に関して、当社は現時点では、厳重な対策を実施した上で事業活動を継続しております。

しかし、新型コロナウイルス感染症は経済、企業活動に広範な影響を与える事象であり、また、今後の広がり方や収束時期等を予想することは困難なことから当社は外部の情報源に基づく情報等を踏まえて、今後、2021年3月期の一定期間にわたり当該影響が継続するとの仮定のもと、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

これらの仮定の下、当第2四半期連結会計期間末における繰延税金資産の回収可能性等を検討した結果、第1四半期連結会計期間末と比べ、「Go To トラベルキャンペーン」の効果による需要回復の動きが出ているものの、新型コロナウイルス感染症の影響は非常に大きく、想定よりも回復が鈍いことから、税効果会計における企業分類を再度見直したことに伴い繰延税金資産の一部を取崩し、法人税等調整額に2,945百万円を計上しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	25,437	1,943	27,381	—	27,381
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	10	10	△10	—
計	25,437	1,954	27,391	△10	27,381
セグメント利益	2,270	1,036	3,306	△1,214	2,091

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,683	1,869	8,553	—	8,553
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	10	10	△10	—
計	6,683	1,879	8,563	△10	8,553
セグメント利益 又は損失 (△)	△6,717	1,070	△5,647	△1,056	△6,704

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。